

シニア派遣教師選考調査票入力上の注意

- 1 選考調査票は、選考に際しての基本的資料となるので、必須項目（※）は全て入力すること。
選考調査票の様式内の青色セルについてはプルダウンリストから選択すること。
- 2 応募者本人が入力すること。虚偽入力や入力漏れがあった場合、遡ってシニア派遣教師候補者の取消やシニア派遣教師としての委嘱を解くことがあるので、正確に入力すること。
- 3 入力後は十分に内容を確認した上で、他の提出データ一式を <https://forms.office.com/r/dnkM1MF9Gg> にてアップロードした上で、文部科学省国際教育課在外教育施設教職員派遣係(hakenkyoshi@mext.go.jp)まで提出した旨電子メールを送信すること。

【表面について】

「夫婦枠での派遣を希望」については、シニア派遣教師募集要項「13（3）」を十分に確認した上で、夫婦派遣枠での応募を希望する場合は「○」を、夫婦派遣枠での応募を希望しない場合は「―」をプルダウンリストから選択すること。なお、選択されていない場合には、夫婦派遣枠での応募を希望しないものとみなして選考する。

- 欄1 「派遣年度」には、令和6年度即派遣でも令和7年度登録派遣でもどちらでもよい場合「ア」を、令和6年度即派遣のみを希望する場合は「イ」を、令和7年度登録派遣のみ希望する場合は「ウ」をプルダウンリストから選択すること。なお、選択されていない場合には、「ア」とみなして選考する。
- 欄2 氏名の漢字は正式な表記で入力すること。また必ず「フリガナ」を付すこと。
- 欄3 「退職時又は現所属機関」には、退職者については退職時の所属都道府県・指定都市教育委員会名、大学名又は学校法人名を、現職（退職予定者）の場合は現在の所属都道府県・指定都市教育委員会名、大学名又は学校法人名を入力すること。
- 欄4 生年月日は和暦で入力し、**年齢は、令和6年3月31日現在の満年齢を入力すること。**
- 欄6
- ・ 現住所には必ず「フリガナ」を付すこと。
 - ・ 電話番号は市外局番から入力すること。
 - ・ E-mailは教師本人の個人アドレスを入力すること。
 - ※ メールアドレス及び電話番号は選考試験についての連絡をするので、確認のしやすい連絡先を入力すること。
 - ※ 現在の勤務先で使用しているアドレスや勤務先学校長のアドレス等を入力しないこと。
- 欄7
- ・ 現所属機関(学校)名には現在の学校名等を入力し、必ず「フリガナ」を付すこと。
 - ・ 電話番号は市外局番から入力すること。
 - ・ 職名欄には、校長・副校長・教頭・主幹教諭・指導教諭・教諭等の職名を入力すること。
- 欄8
- ・ 退職時所属機関(学校)名には、退職時（再任用によるものは除く）の学校名等を入力し、必ず「フリガナ」を付すこと。

- ・ 電話番号は市外局番から入力すること。
- ・ 退職（日・予定日）には、すでに退職した者はその年月日を、現職（退職予定）の者については退職予定日を入力すること。

欄9 学歴区分についてプルダウンリストから選択すること。

- 欄10
- ・ 通算経験年数は、小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部の校長、副校長、教頭、主幹教諭（養護又は栄養の指導及び管理を司る主幹教諭を除く。）、指導教諭又は教諭（常勤講師を含む。以下「教諭等」という。）としての勤務経験年数（現職派遣教師として在外教育施設に派遣された経験年数を含む。非常勤講師の経験年数、シニア派遣教師として在外教育施設に派遣された経験年数を除く。）を、令和6年3月31日現在で入力すること。
 - ・ その他には、行政機関、高等学校、中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部（以下「高等学校等」という。）等の教諭等の経験を入力すること。応募する職種が「校長のみ」「校長又は教頭」「校長又は教諭」「すべて」の場合、義務教育諸学校の教諭等としての経験が21年以上必要。応募する職種が「教頭のみ」「教諭のみ」「教頭又は教諭」の場合、義務教育諸学校の教諭等としての経験が18年以上必要だが、当該経験が18年に満たず、高等学校等の教諭等の経験年数（7年が上限）を含めて18年以上の要件を満たしている場合は、高等学校等の教諭等の経験年数が分かるように入力すること。なお、非常勤講師やシニア派遣教師として在外教育施設に派遣された経験年数は含めることができない。
 - ・ 年度途中での採用等、年数のみで入力することが出来ない場合は、小数点を用いること。

- 欄11
- ・ プルダウンリストから有無を選択し、「有」の場合は右の欄に詳細を入力すること。
 - ・ 「在外教育施設派遣教師経験」には、派遣教師（シニアを含む）としての経験のみ入力し、現地採用や学校採用としての経験は含まないこと。

- 欄12
- ・ 「所有免許状等」の「免許状の種類」について、小学校教諭専修免許状、中学校教諭1種免許状……は「小専免」「中1種」……と、「免許教科」について、「国語」「数学」……は「国」「数」……とそれぞれ略記している。養護教諭及び幼稚園については専修免許状、1種免許状及び2種免許状の区別はしていないため、いずれかを保有している場合は、右欄のプルダウンリストから「○」を選択すること。
 - ・ 「免許教科」欄について、免許教科が外国語の場合、（ ）内に英語等の言語を入力すること。入力に当たっては、英語であれば「英」、フランス語であれば「仏」と略記可能（以下同じ）。
 - ・ 「免許教科」欄に該当する科目がない場合は、「外（ ）」（外国語の免許状を所有している場合や複数の免許状を所有している場合はその左の欄）を当該所有免許教科の略記に変更し、プルダウンリストから○を選択すること。
 - ・ 特別支援学校の免許状改正により更新した者についても、「特支専免」「特支1種」「特支2種」のうち該当する免許種の右欄のプルダウンリストから「○」を選択す

- るとともに、該当する領域の右欄のプルダウンリストから「○」を選択すること。
- 欄 13 「過去5年間の授業担当教科」は、現職（退職予定者）の場合は、令和6年3月31日から起算した過去5年間、退職者の場合は、退職年度から起算した過去5年間に担当した教科に「○」を入れること。なお、在外教育施設での経験も含む。
- 欄 14 ・ 複式学級の担当経験の有無について、青色セルから選択すること。なお、在外教育施設での経験も含む。
・ 「司書教諭資格」を有する者とは、学校図書館法第5条第1項各号に該当する者をいう。
- 欄 15 「最も直近に授業を行った年度及び教科」は、最後に教壇に立って授業を行った年度と、その教科を入力すること。なお、在外教育施設での経験も含む。
- 欄 16 「教えたことのある教科」は、過去に教えたことのある教科について青色セルから「○」を選択すること。なお、在外教育施設での経験も含む。
- 欄 17 「指導経験はないが教える自信のある教科」は、免許状の有無に関わらず教える自信のある教科について「○」を入れること。また、令和5年度末までに取得見込の教員免許状がある場合は、免許状の種類及び取得予定時期を入力すること。
・ 18
- 欄 19 「担任等の経験」は、通常学級の担任経験がある学年に「○」を入れること。また、直近の通常学級の担任、学年主任の経験について入力すること。なお、在外教育施設での経験も含む。
～21
- 欄 22 「外国語、クラブ（部）活動指導等」の欄は、それぞれの項目ごとにABCのいずれかをプルダウンリストから選択すること。
※ 必ず全ての区分について選択すること。（空欄での提出は認められない。ただし、「外国語能力」のうち英語以外について記載できる言語がない場合を除く。）
※ すぐにでも業務等を担える高い能力・指導力等を有している場合は「A 自身がある」を、自身の学習等を前提に業務等に活用できる能力・指導力等を有している場合は「B なんとかできる」を、業務等に活用するには相当の努力が必要な場合は「C 自信がない」を選択すること。
※ 武道の欄については、プルダウンリストから柔道又は剣道を選択すること。（どちらも自信がない場合は空欄のままとし、ABCのうちCを選択すること。）
- 欄 24 「資格」欄は資格段位等がある場合、その資格段位及び資格取得年月を入力すること。特に、語学に関する資格（英検、TOEFL等）がある場合は、資格名、結果（点数、級等）、資格取得年月を必ず入力すること。
- 欄 26 「健康状態」への入力漏れが後に発覚し、査証（ビザ）が発給されないなどの影響が生じる場合があるため、欄28の既往症も含めて遺漏なく入力すること。その際、完治した病や現在の健康状態に加え、身体的特徴や実際に発病した事実はなくても、長期の海外滞在に当たり、心身の健康面で懸念される事柄についても入力すること。
- 欄 27 「常服薬」には、有無のいずれかをプルダウンリストから選択し、有の場合は具体の名称を入力すること。
- 欄 28 既往症の有無についてプルダウンリストから選択し、「有」を選択した場合は詳細につい

て入力すること。年月は和暦で入力すること。

- 欄 29
- ・ 「家族状況」には、配偶者及び18歳未満の子がいる場合は子についても入力すること。その際、以下の点に留意すること。
 - ・ 「同伴の有・無」については、原則として文部科学省提出後の変更は認められないため、十分検討した上でプルダウンリストから選択すること。なお、配偶者とは婚姻関係にある者をいい、内縁関係にある者（国庫補助対象外）を記載しないこと。
 - ・ 「健康状態・既往症・ケアを要する事柄（特別支援等）」には、現在の健康状態、完治したものを含め既往症等を入力するほか、実際に発病した事実はなくても、長期の海外滞在に当たり、心身の健康面で懸念される事柄についても入力すること。
※ 国によっては、健康状態等で査証取得が難しくなる場合があり、状況を鑑みて派遣先の検討を行うため、内定後等に発覚し支障が生じることはないよう、正しく入力すること。
 - ・ 年齢は令和6年3月31日現在の満年齢を入力すること。
 - ・ 国庫補助の対象となる同伴家族の範囲等については、「令和6年度及び7年度在外教育施設シニア派遣教師募集要項」を確認すること。
- 欄 31
- ・ 配偶者の教職経験の有無をプルダウンリストから選択し、「有」を選択した場合は詳細を入力すること。
 - ・ 配偶者の職務経験について、特別支援学校における勤務経験がある場合は欄31の空白セルに分かるように入力すること。

【裏面について】

- 欄 32
- ・ 校長、副校長・教頭の歴を小中それぞれ入力し、その合計歴も入力すること。
 - ・ 「管理・指導主事等経験」については、教育委員会での勤務経験年数を入力すること。
- 欄 33
- ・ 「勤務歴」は、教諭として任用後の勤務校等を年度の古い順に降順で入力すること（例：〇〇市立△△小学校、□□市教育委員会義務教育課）。また、右欄にそれぞれ職名（教諭、教頭、指導主事等）を入力すること。
 - ・ 勤務先の学校が国際バカロレア（IB）認定校かつ応募者がIBプログラムの実施を担っていた場合は、IBの欄に「○」を入れること。
 - ・ 「休職歴」について、1か月以上の休職経験（休暇や休職の種別を問わず、1か月以上連続して休みが続いた場合）がある場合は、その理由も含めて遺漏なく入力すること。ただし、産前・産後及び育児休業は除く。
 - ・ 「賞罰」について、表彰や懲戒があれば入力すること。特にない場合は「無」と入力すること。
- 欄 34
- ・ 「過去5年間の校務分掌等状況」には、過去5年間に実際に担当したものをそれぞれ入力する。
 - ・ 「学校の特徴」には、小中一貫校、研究開発校、研究指定校、コミュニティスクー

ル等、特徴ある学校の取組について入力すること。

- ・ 「IB」の欄には国際バカロレア（IB）認定校かつ応募者がIBプログラムの実施を担っていた場合は、IBの欄に「○」を入れること。

欄 35 「派遣先についての希望」には、「ア」「イ」のどちらか一方に「○」を入れ、「イ」に「○」をした場合には、「令和5年度教師派遣の対象となる在外教育施設一覧」に記載されている学校の所在する国又は地域を入力し、「希望しない理由」も入力すること。
※ あくまで希望となるため、希望しない地域に派遣されることもあることを御承知おきいただきたい。

欄 36 「過去の受験回数」は、今回の受験を除き、現職時、シニア時の受験回数について、それぞれ該当する回数を選択すること。また、シニア時の受験経験がある者は、受験した年度を（ ）に和暦で入力すること。

欄 37 「経験のある校務分掌」には、経験した全ての校務分掌に「○」を入れること。

欄 38 「現職中の研究実績や教育活動」には、現職中に行った研究発表や、特筆すべき教育活動等の実績、校長会や教育研究会等の活動について入力すること。

欄 40 日本人学校又は補習授業校のいずれか一方での勤務を希望する場合は、該当する方に「○」を入れた上で、その理由について入力すること。特に該当しない場合は入力不要。

欄 41 在外教育施設派遣教師としての勤務経験の有無をプルダウンリストから選択するとともに、退職時等の職名（校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭等）、派遣希望職種を選択すること。

- ※ 派遣教師経験がない者は、「教諭のみ」を選択すること。なお、シニア派遣教師として内定又は登録された後に、派遣職種等を理由に辞退することはできない。

欄 42 応募者本人が、虚偽や欠落のないことを確認し、青色セルのプルダウンリストから「○」を選択するとともに氏名等を入力すること。

欄 43 在外教育施設派遣教師内定者として決定した場合、派遣（内定）先の在外教育施設では校務分掌の検討等のために新規派遣教師の保有免許状や勤務経験等が必要となる。入力した選考調査票について、派遣（内定）先に提供しても差し支えない場合は「○」を入れること。（派遣（内定）先から選考調査票を求められた際に、「○」がない方については自身で派遣（内定）先学校長に提供いただく必要がある。）

「摘要」欄には、一切入力しないこと。